



Title	グローバルヘルスのエビデンスに基づく実践・研究の推進
Author(s)	大田, えりか
Citation	目で見えるWHO. 2023, 84, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/92353
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

グローバルヘルスのエビデンスに基づく 実践・研究の推進

世界の人々のよりよい健康 につながる研究

皆さんの「国際保健を学びたい」というきっかけは、なんでしょうか。私は小学生の頃にマザー・テレサやシュヴァイツァーの伝記を読み、将来は途上国で保健医療活動がしたいと漫然と夢見ていました。学部生の時は、スタディツアーやボランティアなどでネパール、タイ、インドネシア、ヨルダン、イラク、ブラジル、トルコ、アルバニアなどの国々に行き、海外でのボランティア活動を行っていました。大学卒業後は助産師として専門性を身につけ、世界の妊産婦や子どもたちに役立つ研究をしたいと考え、修士課程、博士課程へ進学しました。博士課程では、長崎大学のフィールドのベトナム・ニャチャンでの調査を行い、海外で調査する面白さや大変さを味わいました。ベトナムへは3年間通いながら約3000名の妊婦健診の体重増加とそのリスクに



聖路加国際大学大学院 国際看護学教室 教授

大田 えりか

東京大学大学院保健学博士。国際・地域連携センター長、コクランジャパンセンター副理事長、コクラン妊娠出産グループのアソシエイトエディターとして活躍し、世界保健機関ジュネーブ本部リプロダクティブヘルス部門や栄養部門のWHOガイドライン作成や共同研究に携わっている。

関するデータをとり、博士論文としてまとめ、Bulletin of the World Health Organizationに出版しました。

その後は、研究員や大学教員として様々な研究に取り組みました。2014年に、WHOのリプロダクティブヘルスリサーチ部門のシニアヘルスサイエンティストとして、イギリスのリバプールのコクラン妊娠出産グループに出向していた時には、妊娠・出産の感染症のWHOガイドラインの作成に携わりました。現在も継続して、母子保健部門や栄養部門のWHOガイドライン作成の規範セッターの仕事に携わっています。

研究には様々な手法があります。実際の臨床現場や対象となる人々からデータを収集して行う調査研究、ビッグデータといわれる全国調査や既存のデータの2次解析を用いた研究、系統的レビューという手法を用いて、既存のランダム化比較試験などの研究をまとめて新たなエビデンスを明らかにする研究などです。目的に合わせて研究方法を選択するわけですが、なかでも系統的レビューにはエビデンスに基づいた実践を促し、診療ガイドラインの作成や保健政策への提言につながるという重要な役割があります。コクラン日本センターの事務局も、大学内に設置しており、ワークショップなどコクランレビュー著者育成の活動にも力を注いでいます。

聖路加国際大学国際看護学研究室では、グローバルヘルスに関するさまざまなテーマを対象に、研究活動を行っています。私自身は、助産師で国際母子保健学を専門に研究しておりますが、院生は、グローバルヘルスやSDGsに関連するあらゆる分野のテーマで研究しています。国内外で量的・質的に調査を実施したり、系統的レビュー、ネットワークメタ解析や、ミックスメソッド、国レベルのデータを用いた疫学研究、モデリングを用いた研究を実施される方もいます。

また修士課程から系統的レビューや疫学研究について学び、在学中から英文で



国際機関（WHO本部）インターンシップ



修了生との卒業写真



フィリピンフィールドワーク



上段：インドネシアフィールドワーク
下段：国際看護学教室集合写真

の国内・国際学会発表や国際誌への論文投稿を積極的に行っています。このような経験は学生自身の強みとなり、看護職としてグローバルヘルスの分野での活躍や世界への学術的な貢献にもつながります。

さらに在学中に様々な国際機関で数か月のインターンシップを経験することで、知見を広げることも可能です。これまでWHO 本部（スイス/ジュネーブ）やWHO 西太平洋地域事務局（フィリピン/マニラ）、国連人口基金アジア太平洋地域事務所（タイ/バンコク）、厚生労働省（日本/東京）などでインターンシップを行ってきました。国際保健のガイドラインの作成や支援対象国への政策提言など、グローバルヘルスの役割の一端を経験することは、自身のキャリアの方向性を見出す貴重な機会となります。ま

た、インドネシアやフィリピンにフィールドがありますので、海外での調査・研究の実施も可能です。

修士課程には、専門分野での専門性を高め、研究能力の開発をめざす修士論文コースと専門性を深めた実践能力の開発をめざす上級実践コースがあります。博士後期課程には、研究者としてPh.D. 取得を目指すコースと、実践に焦点をあて、既存のエビデンスを臨床に実装する学位であるDNP (Doctor of Nursing Practice) コースがあります。国際看護学研究室にはいずれのコースの学生も在籍しており、各自が持つ問題意識に基づいた研究疑問を追究しています。大学が実施する海外研修プログラムに参加する機会や海外に行く院生のための国際奨学金もあります。また研究室には、ミャンマーやインドネシアからの外国人留学生

もいますので、出身国での経験や保健医療事情、文化的背景を共有してもらったり、逆に日本の事情を伝えたりといった、多面的な交流をすることもできます。講義や研究発表、教室会議はすべて英語で行っています。

日本でも世界でも、博士を取得した研究者が求められています。世界をよりよくしたい、世界中の人々がより健康に過ごせる一助となる仕事をしていきたい、途上国で国際看護を実践したい方は、ぜひ研究室のホームページをご覧ください。世界の人々の健康をよりよくしたいという想いをを持った仲間が増えることを祈念しています。

研究室ウェブサイト
<https://www.slghn.com/>